

SHOW HEY シネマルーム

★★★★

汚れた心

2011年・ブラジル映画

配給/アルバトロス・フィルム、インターフィルム・107分

2012(平成24)年9月8日鑑賞

テアトル梅田

Data

監督：ヴィセンテ・アモリン
原作：フェルナンド・モライス『汚れた心』
出演：伊原剛志/常盤貴子/余貴美子/菅田俊/大島葉子/セリーヌ・フクモト/エドゥアルド・モスコヴィス/奥田瑛二/アンドレ・フラテスキ/矢崎勇

👁️👁️ みどころ

今や死語と化した「國賊」とか「非国民」という言葉を、あなたは知ってる？敗戦直後のブラジル、サンパウロの日系社会でそんな言葉が氾濫し、「勝ち組」と「負け組」に分かれて死闘をくり返していたとは！日本人俳優たちの演技力はさすがだが、その熱演が光れば光るほどどこかに虚しさが・・・。

しかし、現実^{カクシ}は現実！なぜ日本人監督がこれを描けなかったのかという反省を含め、戦後67年間の平和と民主主義を生きてきた私たちの反省は・・・？



■今ドキ、こんな言葉からナニを？■

本作は、スクリーン上に達筆な筆字で「國賊」という言葉が書かれていくシーンから始まる。国語教育と歴史教育が著しく劣化している今、そもそも現在の日本の若者は、この「國賊」という言葉が理解できるのか？ひょっとして、国という言葉が國という昔の字で書かれているから、これを「こくぞく」と読むことすらできないのでは・・・？本作は伊原剛志と常盤貴子が主演し、奥田瑛二、余貴美子、菅田俊らが共演している映画だから、日本映画だと思っていると、何と本作はブラジル映画であり、監督は『善き人』(08年)『シネマルーム28』56頁参照)のヴィセンテ・アモリン。こりゃ一体ナニ？そして、そりゃ一体なぜ？それは、ヴィセンテ・アモリン監督が本作の原作となったフェルナンド・モライスの『汚(けが)れた心』にひどく



『汚れた心』
発売：アルバトロス/インターフィルム
税込価格：5,040円
(c)2011 Mixer All Rights Reserved.

興味を惹かれたためらしい。

1946年にブラジルのミナスジェライスに生まれたフェルナンド・モライスは、戦争終結直後ブラジルの日系社会で生まれた「臣道聯盟」という組織や日本人の「隣人同士の喧嘩」に興味を持ち、取材する中で『汚れた心』を書き、2001年度ジャブチ賞のノンフィクション部門第1位に輝いたらしい。しかし、プレスシートやさまざまな資料でそこまで調べても、私の心の中では、なぜそんな話についてブラジル人が原作を？なぜ、そんな話についてヴィセンテ・アモリン監督が映画化を？と思う気持ちが抜けなかった。これは逆にいえば、なぜこんな問題を日本人が取材できなかったの？なぜこんなテーマを日本人監督が映画化できなかったの？ということだ。

戦後67年間続いてきた日本の平和と民主主義が何となく危うくなってきている今、本作の冒頭スクリーン上に書かれた「國賊」という言葉から、本作が描いた問題作を日本人みんなが考えてみる必要があるのでは？



『汚れた心』

発売：アルパトロス/インターフィルム 税込価格：5,040円

(c)2011 Mixer All Rights Reserved.

■□■ 昨今は、何でも「勝ち組」と「負け組」だが・・・■□■

戦後復興を終えた日本が1964年の東京オリンピックから1970年の大阪万博へと高度経済成長を続けていた時代、日本人は「一億総中流」意識で「団結」していた。しかしバブル時代が終わり、「失われた10年」が続く中、2001年から始まった小泉改革の中で次第に「勝ち組」「負け組」という言葉が定着していった。中国における「貧富の格差」は中国共産党の一方独裁制度が生み出している面が強いが、自由と民主主義の権化であるアメリカでも、近時は「1%の富裕層と99%の貧困層」と言われるまでに「勝ち組」と

「負け組」の区別が進んでいる。

しかして事前に勉強したところ、本作ではこの「勝ち組」と「負け組」という言葉がさかんに使われているが、本作の言う「勝ち組」と「負け組」は昨今の日本でさかんに使われている「勝ち組」と「負け組」とは全く意味が違うから、それに要注意！『ムルデカ』（01年）を観た時は敗戦直後にインドネシア独立のために戦い、その土となった日本人（軍人）がいたことを知って驚いた（『シネマルーム1』89頁参照）が、本作では敗戦直後のブラジル、サンパウロの日系社会にそんな「勝ち組」と「負け組」があったことにビックリ！

■□■「勝ち組」と「負け組」が全く違う意味で・・・■□■

すなわち本作に言う「勝ち組」とは、「日本の敗戦を知らず、日本はアメリカとの戦争に勝ったと確信していた人」であり、「負け組」とは「戦後1週間以内に日本の敗戦を知っていた人」のことらしい。プレスシートにある鈴木茂氏の「ヴィセンテ・アモリン『汚れた心』に寄せて」では、①終戦1週間以内に日本の敗戦を知り、いわゆる「戦勝派」から「負け組」と言われた「認識者」が14.5%、②日本の敗戦には深い疑問を持ち、一部のものは勝利を確信している「狂信者」が28.6%を占めていたらしい。そのうえ驚くべきことに③残りの6割近くを占める「確信派」は、終戦直後日本の勝利を信ずるか、少なくとも敗戦に疑いをもって、「戦勝派」の大部分をなし、終戦1年後から漸次日本の敗戦を知っては来たが、認識者に対しては「日本が負けた負けたといふらす『ふとどきもの』として」対立し、「狂信者」に対しては、「かつて同志ではあるが『今日なお考えを改めないファナチコ（狂信者）』と称して、あまり深く交わらない」人々であったらしい。つまり、この「狂信派」と「確信派」を併せると、「勝ち組」が約85%を占めていたということだ。

戦後67年間平和と民主主義の中で育った私たちは、今情報の閉ざされた北朝鮮の「先軍思想」や、今なお戦火が絶えない中東における「イスラム原理主義」をバカにしている（？）が、わずか60年前のブラジルにおける日系社会でそんな実態があったとは！本作の映画としての完成度はイマイチだが、その問題提起の貴重さは大。本作に見る「勝ち組」と「負け組」の意味をしっかりと理解するとともに、その中における主人公タカハシ（伊原剛志）をはじめとする日本人たちの行動のあり方と心の持ち方をしっかりと学びたい。

■□■「敵の敵は味方」！しかし、「敵の味方は敵」？■□■

映画冒頭に見る、第2次世界大戦直後のブラジル、サンパウロ州の小さな町における日系社会はブラジル政府に抑圧されているものの平和そう。本作の主人公であるタカハシ写真館を営むタカハシが、その妻ミユキ（常盤貴子）とキスを交わし、ベッドの中で愛し合う風景（ホンのちょっとしか見せてくれないのは残念だが）や、隣人の日系農民の組合長であるササキ（菅田俊）やその妻ナオミ（余貴美子）その一人娘アケミ（セリーヌ・フクモト）との家族ぐるみのつき合いを見ていると、心が和まされる。

事件が起きたのは、日系社会のリーダーである元陸軍大佐のワタナベ・ノボル（奥田瑛二）が開催した集会在ブラジルの官憲当局によって弾圧され、ガルシア伍長（アンドレ・

フラテスキ)の手によって命よりも貴い日章旗が踏みこじられたこと。ワタナベはこれを契機としてガルシア伍長への報復を試みるものの、それがダメだと覚ると、ブラジルの当局側について取調べの通訳をしていたアオキ(矢崎勇)を敵と見なすことに。毛沢東の言葉によれば、「敵の敵は味方」だが、ワタナベの考え方では、どうも「敵の味方は敵」となるらしい。その結果、タカハシが文字どおりワタナベの「刺客」としてアオキのもとへ赴くことになったわけだが、そこにおけるタカハシの決断は?本作のキーワードの第1は「國賊」だが、第2のキーワードは「非国民」。すなわち、抜刀した状態でアオキと対峙したタカハシは、そこで「日本の勝利を信じられない奴は日本人じゃない。お前は心が汚れている。非国民め!」と罵声をあびせるわけだが、あなたはこのセリフをどう理解?



『汚れた心』

発売: アルバトロス/インターフィルム 税込価格: 5,040円

(c)2011 Mixer All Rights Reserved.

■□■日本人俳優が熱演すればするほど・・・■□■

本作では伊原剛志と奥田瑛二の「熱演」が目立っているが、彼らが熱演すればするほど今の情報社会を生きる私たちの目には、彼らの硬直性=バカさ加減が目立ち、うんざりしてくる面がある。それに対して、タカハシの妻としてその行動をつぶさに観察せざるをえないミュキを演ずる常盤貴子は、極力セリフを抑え表情のみで感情を表現するクールな演技が目立つから、そのせつなさが伝わってくる。また、余貴美子や菅田俊などの脇役陣も日本人俳優はみんな自分の役柄をしっかりと自覚した演技をしているが、これもそうであればあるほどそれぞれの価値観に囚われ、合理的な解決策を見出すことができていないというイライラが募ってくる。つまり、敗戦直後のブラジル、サンパウロにおける日系人社会

はホントにこんなだったの？という率直な驚きがなかなか尠削しないわけだ。

土佐の「人斬り以蔵」こと岡田以蔵は土佐勤王党の親分である武市半平太から命じられるままに、人斬りを重ねていたが、旧友の坂本龍馬はそれをどんな目で見ていたの？それは2010年のNHK大河ドラマ『龍馬伝』を観ていた人にはよくわかるはずだ。しかし本作では、次第にワタナベの飼犬のようになって「人斬り」を重ねていくことの虚しさを自覚するとともに、ワタナベへの疑問も生じてきたタカハシに対して「刺客」が放たれたとなると、タカハシの怒りの矛先はどこに・・・？本作の結末は虚しいものだし、それを受け入れること自体もかなり苦しいものがある。しかし、それも含めてそれがあの時代の実態だったことはしっかり受け入れなければ。



『汚れた心』

発売：アルバトロス/インターフィルム 税込価格：5,040円
(c)2011 Mixer All Rights Reserved.



『汚れた心』

発売：アルバトロス/インターフィルム 税込価格：5,040円
(c)2011 Mixer All Rights Reserved.

■□■映画評論家の評価は真っ二つだが・・・■□■

しかし、本作に対する映画評論家3氏の評価が真っ二つになっているところが興味深い。『キネマ旬報』8月上旬号において、品田雄吉氏は「奥田、伊原を始めとする日本人出演者がよい仕事をしている」、三浦哲哉氏は「日本映画（&テレビ）のときと比べてどうしてこんなに格段に良いのだろうか！」と称え、それぞれ星3つを与えているが、筒井武文氏は「何も戦時下の日本人の盲目性をここまで体現しなくてもいいではないか」と批判し、何と星1つ。私も筒井氏の指摘はごもっともと思うが、それが歴史的な事実だったとすれば、率直に受け入れるべきでは？

「決められない政治」ばかりが目立った今国会が閉幕し、現在の日本は民主党の代表選挙、自民党の総裁選挙、そして衆議院議員総選挙へと突き進んでいるが、そんな中で本作を鑑賞することによって、戦後67年間続いた平和と民主主義下での日本人の「盲目性」をしっかり認識し、そこからの脱却を目指すべきでは？

2012（平成24）年9月11日記